

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

北原「学校はブラック!? 先生は聖職者!?働き方改革が叫ばれる中、町内教職員の労働実態について尋ねる」

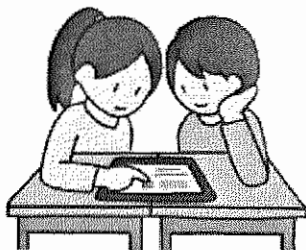


文教厚生常任副委員長
広報常任委員

北原浩一郎

Q 子どもたちを育む教育の場である学校。毎晩遅くまで小・中学校の職員室の電灯が点っているのをご存知か?それは当たり前前の光景なのか?町内各小中学校の働き方改革の取り組みについて尋ねる。

A (教育長) 教職員の意識の改革を始め、各学校での定時退勤日の奨励や朝会や職員会議の削減、バーコードによる時間管理を実行。部活動では小学校は社会体育へ



移行し、中学校には2人の部活動指導員が配置された。またタブレットや校務処理の新しいソフト等も導入され、ICTの環境整備も一層進み、この積極的な活用は、各学校の働き方改革にも大きく貢献するものと期待をしている。

Q 超過勤務80時間=過労死ライン。この超過勤務時間は、万が一の際の公務災害認定に重要な証拠となるので、先生自身の身は自分で守る、管理職の先生方も同僚の先生方を守る為にも正確な時間管理が大切である。町内教職員のひと月あたりの超過勤務が平均80時間超の実態について尋ねる。

A (教育長) 超過勤務の一つの目安となるひと月の総勤務時間が80時間を超える人の平均人数で見ると平成29年度は小学校で1人強。中学校は6人強。平成30年の10月までの期間では小学校が1人強。中学校は6人である。

Q 南関中で6名の先生が毎日4時間、夜9時まで学校に残って仕事していることになる。また小・中ともに毎日2時間残業されている先生は半数に近い。教職員の世界には、残業手当という概念がない。残業は、あくまでも自分の時間を使って奉仕をされている。教職は聖職者と言われる所以である。この先生自身の聖職者という意識、周囲の見方がこの労働実態を作ってきたとも言える。先生も一人の人間。今

学校現場は教育環境の変化、ICT化、多様な児童・生徒への対応、そして保護者との対応など本当に自分を越えないといけないそういう場面が多くあり、ストレスは半端ない。やりがい、志だけではやっ

ていけない時代である。今こそ先生方を守る環境作りが本当に求められていると思うが。

A (教育長) メンタル精神的な疾患で退職されたり、様々な理由で早期退職されている。しかし、教師冥利につきることも多く、やりがいにつながっているのも事実である。

Q 現在の学校における労働安全衛生への取り組みについて尋ねる

A (教育長) 教職員にはどの職場以上に健康で安心してやりがいを持って働ける職場環境が必要である。その為に



も風通しのよい教職員組織でなければならない。労働安全衛生の考えのもとに更なる意識改革、ICTの活用やスクラップ&ビルドを大切に担当業務改善等の取組を加速させる。働き方改革にも繋がるコミュニティスクールの推進も更に教職員の理解周知を図っていく。

Q 総括安全衛生委員会を組織すれば、教職員数50人を超え、産業医の無料相談を受けることが可能となる。個々の学校の問題を出し合って協議対応できる委員会が南関町にも必要ではないか。

A (教育長) 校長に状況を確認しながら、新たな組織を作ったが良いという判断になれば前向きに検討していきたい。

まとめ 先生方がいきいきと元気に働ける労働環境を整えることが南関町の子ども達の健やかな成長へとつながる。心身ともに健康な先生がいる南関町の教育環境を実現していただきたい。

